

平成 26 年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者後期入試 試験問題

刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 50 点、問題 2 が 50 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題1】 以下の事例を読んで、Xの罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く）。
（解答の冒頭に「問題1」と記入すること。）

Xは、Aと路上で偶然肩が触れたところ、そのまま通り過ぎようとしたAに腹を立て、「おい、謝れよ。」と怒鳴りつけた。しかし、Aがそれを無視するような態度を示したので、たまたま持っていた刃体の長さ15センチの登山ナイフを取り出し、殺意なく、Aの背中を切りつけたところ、Aは負傷してそのまま倒れ込んだ。Xは、Aの傷を見て、なお死に至る程度のものとは思わなかったが、倒れ込み意識を失ったAを見て、Aが高級腕時計を身につけているのに気づき、換金目的でそれを腕から外そうとした。すると、通行人のBが悲鳴を上げたので、Aから外した腕時計を持って、そのまま逃走した。

AはBの通報により病院に運ばれ、医師Cによって、緊急手術を受けた。Aの前記傷害は、Xの予想に反し死亡結果を生じさせかねない重大なものであったが、手術は成功し、その後、Aは快方に向かっていた。ところが、Aは、夜中に病室を抜け出し飲酒するなど安静に努めなかったため、容態が急変して前記傷害の合併症により死亡した。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】（解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。）

警察官Pらは、甲暴力団幹部Aが某市内の繁華街にある飲食店、風俗営業店などの店長を脅して、「みかじめ料」（いわゆる用心棒代）を毎月、支払わせていた恐喝被疑事件について捜査を行ない、捜索場所を甲暴力団事務所、捜索差押目的物を「みかじめ料」収入を記録したノート類等とする捜索差押令状により甲暴力団事務所を捜索した。その際、甲暴力団事務所にいた甲暴力団組員Bが、そわそわして落ち着かない様子を示して甲暴力団事務所を立ち去ろうとしたので、警察官Pらは、Bを呼び止め、Bが捜索開始前からずっと持っていたポシェットバッグを開けてみせるよう求めたが、Bはこれに応じようとしなかった。そこで、警察官Pが、力づくでBが持っていたポシェットバッグを奪いとり、そのチャックを開けて、その中をみたところ、覚せい剤様の白色粉末の入った小ビニールが5袋入っていたので、Bの承諾を得てこれを簡易検査したところ、覚せい剤であることが判明したため、Bを覚せい剤取締法違反の現行犯で逮捕した。

この警察官らの行為は適法か。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

被害者の行為の介在と因果関係，暴行後の領得意思など，刑法総論および各論の基本的な事項を問うことにより，刑法理論に関する正確な理解をみるとともに，事例処理能力を試すものである。

問題 2

搜索場所に居合わせた第 3 者に対する搜索差押に関する法的問題を出題した。